

大牟田市立橘中学校

1 本校のESDの特徴

本校は、学校教育目標である「志を持って、自ら学び、未来を切り拓く生徒の育成」中での持続可能な開発のための教育の重点目標として、「ひと・こと・もの」について、自ら課題を見出し、体験活動を通して、主体的に問題解決ができるように、3つのキーワード「発信！行動！交流！」を掲げ、活動を行った。

具体的には、福祉体験学習、職場体験学習、保育体験学習、環境保全体験学習を柱に、①認知症や高齢者に係わる学習、②将来の生き方に係わる学習、③生命尊重や思いやりに係わる学習、④環境保全に係わる学習を実施した。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

本校では、持続可能な開発のための教育の目標として①「持続可能な発展のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれるようにする。」②「すべての人が質の高い教育の恩恵を享受すること。」③「環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと。」④「人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと。」⑤「他人・社会・自然環境との関係性を認識し、『かかわり・つながり』を尊重できる個人を育むこと。」とした。

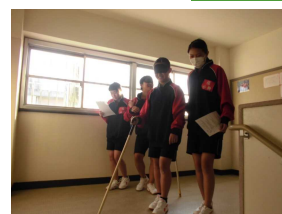
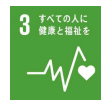
また、持続可能な開発のための教育によって育みたい力を①「批判的に考える力」②「未来像を予測して計画を立てる力」③「多面的・総合的に考える力」④「コミュニケーションを行う力」⑤「他者と協力する力」⑥「つながりを尊重する態度」⑦「進んで参加する態度」を掲げた。

具体的方策として、学び合いによって志を持つように、学習方法に関して、解決方法や手段を考え、見通しを持ち計画をたて、情報を収集・分析したり、問題状況に応じて、事象間の因果関係について分析したり推論したり、相手や目的に応じて、わかりやすくまとめ、表現する方法を取り入れた。また、認め合い自ら学ぶように、他者や社会との関わりについて、異なる意見や他者の考えを受け入れたり他者と協同して課題を解決したり、課題の解決に向けて、地域の活動に参加し、身近な人や地域、自然に感謝の気持ちを持ち、自分にできることをしようとする心を養った。さらに、高め合い、未来を切り拓くために、自分自身に関することとして、自らの行為について意思決定をさせたり目標を設定し課題の解決に向けて主体的・創造的に取り組ませたり、自己の将来を考え、夢や希望を持つように、活動を仕組んでいった。

3 特徴的な活動事例

(1) 認知症や高齢者に係わる学習（福祉学習）

1年生において、福祉に関する現状と課題の学習を経た上で、アイマスク体験や車いす体験、歩行体験などの高齢者疑似体験を校内で行い、高齢者との接し方やバリアフリー化の必要性等を学んだ。その後、まとめの学習として認知症の方や高齢者の方の気持ちを思いやることや身のまわりの施設や福祉環境の整備の重要性を体験から学んだ。



(2) 将来の生き方に係わる学習（職場体験学習）

2年生において、自分の興味・関心や適性について考え、「働く」ということがどのようなことであるかを学習した上で、大牟田市内の30の事業所に分かれて、職場体験学習を行った。その中で、社会人としての責任や人とのつながりについて考え、挨拶や礼儀、自分のことだけでなく人のことを考えて行動することを身につけると共に、「働く」ことの喜びや大切さや苦悩、地域の現状や地域の事業所の活躍を肌で感じることができた。



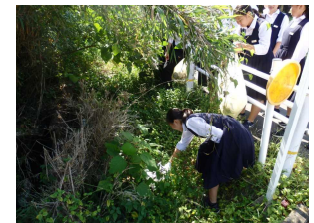
(3) 生命尊重や思いやりに係わる学習（保育体験学習）

3年生において、少子高齢社会の現状や将来親になること、また自然や社会の中での生命尊重の重要性を考えながら、地域の10の保育園・認定こども園に分かれ、保育体験学習を行った。乳幼児の特性や注意することを学習した後、各班で年齢に合わせた設定保育のために、遊び道具の作製や設定保育の進行等を考えた。体験を通して、生命の尊さに改めて気づき、乳幼児と接する中で、コミュニケーションの大切さや言葉遣いや目線や姿勢の大切さ、優しく思いやりの気持の必要性を実感することができた。



(4) 環境保全に係わる学習（環境保全体験学習）

環境保全については、大きな2つの取り組みを行った。1つは、「クリーンアップ大作戦」と題し、全校生徒と保護者と職員で、校区内の清掃活動を行った。地域の環境に触れながら、ゴミ拾い活動を行うことにより、地域の環境保全に関して保護者を含めて考えることができた。2つ目に、「外周一周ゴミ拾い大作戦」と題し、生徒会役員が全校生徒に呼びかけ、放課後ボランティアでのゴミ拾い活動を行った。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・地域の素晴らしさや地域の将来の展望を考える機会にすることができた。
- ・改めて自分の将来を見つめ、自分にできる社会貢献を考えることができた。
- ・体験後のまとめの学習で、保育の現状や将来の自分について見つめ直す機会となり、進路学習とのつながりもつくることができた。
- ・生徒は自分の校区内にまだゴミが沢山あることを実感し、環境保全について考えるとともに、自分には何が出来るかを考え行動する機会になった。

○課題

- ・協働体制の確立を通じた効果的・効率的組織づくりを考え、個人から組織運営部主体への学校運営への転換を図る。
- ・橘中学校の生徒の実態に応じたカリキュラムマネジメントの体制整備を行い、各種データの分析と改善の方策の明確化し、人間関係づくりを重点化した教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動等の年間指導計画を明確に作成し、確実に実施する。
- ・すべての教育活動において、生徒の自尊感情、自己有用感の向上に向けた共通理解と、協働的な活動を実施し、社会に開かれた教育課程の編成を図るとともに、差別、偏見、暴力、いじめを「しない」「させない」「許さない」個人・集団を育成する。